

【プレゼンテーション資料】

菜の花プロジェクトの概要

菜の花プロジェクトネットワーク

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦3番地

TEL 0748-46-4730 FAX 0748-46-4550

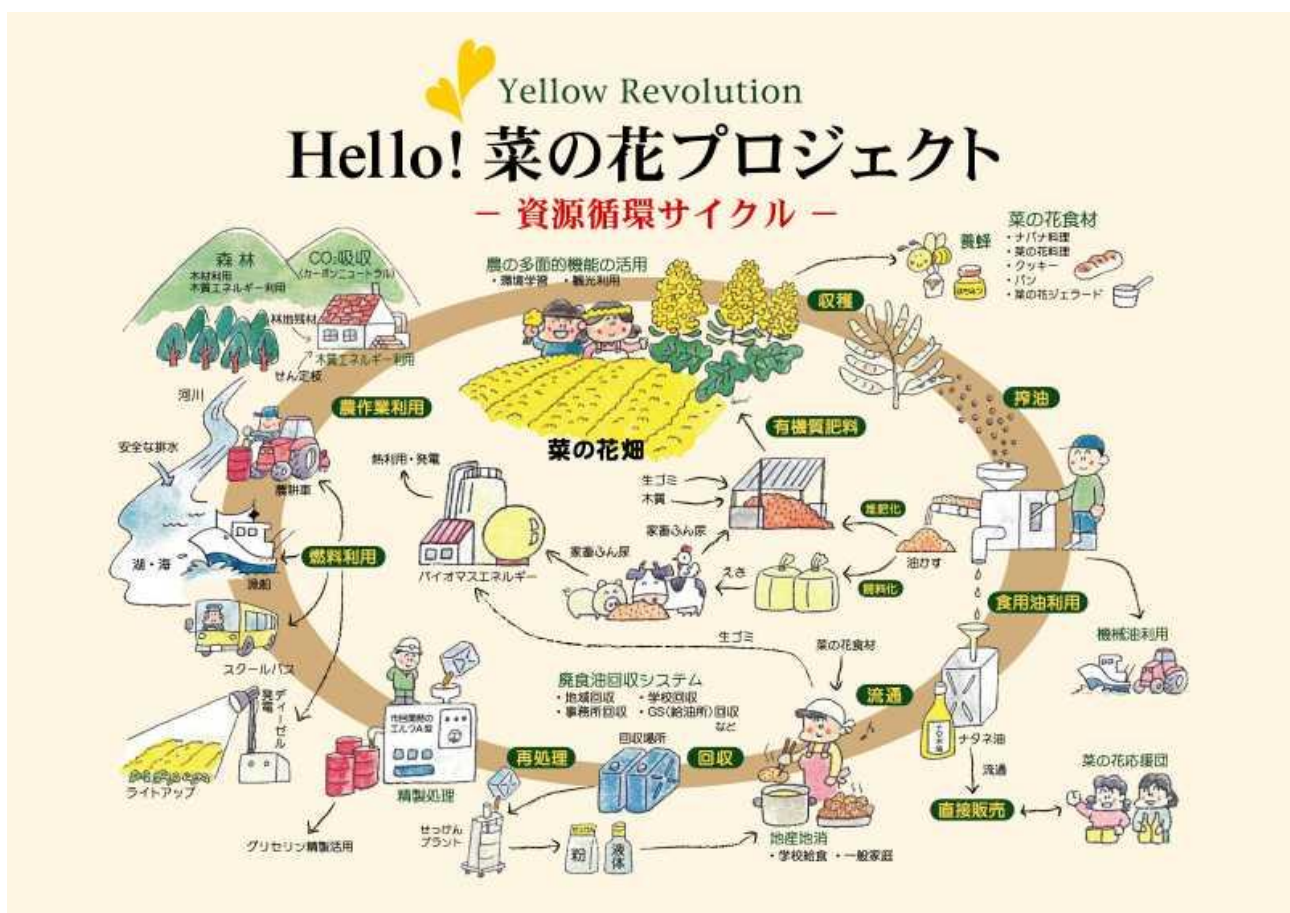
E-mail econavi@mx.biwa.ne.jp

1. 「菜の花プロジェクト」って何？

1) 菜の花プロジェクトの歴史

- ・【第1ステージ(1976～1992)】<水環境再生>
～廃食油を回収し、せっけんへリサイクルする資源循環サイクルづくり～
- ・【第2ステージ(1992～1998)】<エネルギーを創る>
～廃食油の再利用によるBDF(軽油代替燃料)精製と活用への展開～
- ・【第3ステージ(1998～2002)】<農業再生> <菜の花プロジェクトスタート>
～転作田利用による菜の花栽培にまで広げた資源循環サイクルづくり～
- ・そしていま【第4ステージ(2002～)】 <食・エネルギーの地産地消>
<国際ネットワーク>
<未来世代との協働>

2) 菜の花プロジェクトの仕組み



3) 菜の花プロジェクトの広がり

- ・47都道府県すべてで、何らかの活動が展開中
- ・「農業振興」「観光振興」「地域資源活用」「資源リサイクル」「環境教育」「地球温暖化防止」「地域のバイオマスエネルギー再評価」「新産業振興」「産官学民のパートナーシップと地域の活性化」等の展開

2. 菜の花プロジェクトの目指すもの

- 1) 「大量生産・大量消費・大量廃棄」に代わる「21世紀型産業社会」形成
 - ・ 20世紀型産業社会の後始末を「大量処理型」で解決するのではなく、地域のことをできるだけ地域で解決していくという「自立分散・資源循環」の21世紀型産業社会のビジョンを住民に具体的に提示していく。
 - ・ 問題解決を他人任せにするのではなく、まず自分たちの地域での問題としてとらえ、「問題対処型」ではなく「問題未然防止型」の仕組みを取り組みの中で考える。
- 2) 「中央主導による地域振興」に代わる「地域イニシアティブによる地域振興」
 - ・ 20世紀型の「官僚主導」に代わり、生活の場である「地域」「現場」に足をつけた発想と行動と責任に基づいた「地域イニシアティブによる地域づくり」を進める。
 - ・ 地域主導による、21世紀型産業社会の実現に向けての政策のインテグレート（統合）。
- 3) 概念論ではない「資源循環型社会」の具体的な地域モデルづくり
 - ・ 新しい世紀のはじまりの時期にもかかわらず、閉塞感が漂う中で、未来に向かって明るい夢を語ることでできる手応えのある、具体的な地域の未来ビジョンを示す。
 - ・ 多様な地域の知恵と行動が反映され、人々の参加自由度が高く、運動の柔軟な広がりや懐の深さを持った地域モデルづくり。

3. 菜の花プロジェクトの可能性（不可欠な「農の多面的機能」活用の具体的展開）

- 1) 食の安全性の確保
- 2) 地域にある再生可能エネルギー資源の再評価
- 3) 農地、里山、森林等の保全・利用
- 4) 土壌汚染、大気汚染、水質汚染の防止
- 5) 地球温暖化の防止
- 6) 地域の総合学習、地域教育
- 7) 地域コミュニティの再構築
- 8) 農業の再生、「内発型」の地域産業振興と雇用の創出
- 9) 地域振興、地域の活性化（ファームステイ、農家レストラン、エコツーリズム 等）
- 10) 平和的国際貢献

4. 第4ステージ「アグリ・ルネッサンス」（食・エネルギーの地産地消）

- 1) 菜の花プロジェクトネットワーク
- 2) 「菜の花サミット」と「サステイナブル・デザイン委員会」
- 3) バイオマス・ニッポン（一府六省）、国産資源作物の展開（耕作放棄地の解消）
- 4) 菜の花議員連盟（超党派国会議員連盟）と「菜の花地方議員連盟」
- 5) 「菜の花マスコミ応援団」、「菜の花学会・楽会」（若者が主役）

5. 菜の花プロジェクトネットワークの国際連携

韓国菜の花プロジェクト、中国（東北地域）菜の花プロジェクト、モンゴル菜の花プロジェクト、ウクライナ菜の花プロジェクト e t c。